

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

平成30年6月30日現在

今月の重点活動

■ 蔬菜 飛騨地域のGAP研修会が始まる

飛騨蔬菜出荷組合では8年前から独自の「ひだGAP」に取り組んでいる。今年度からは「ひだGAP」の取組内容を「岐阜県GAP確認制度基準」に準じた内容にし、取組みのレベルアップを図っている。

それに伴い、6月11日の清見地区を皮切りに各地区で研修会が開催された。研修会ではGAPの取組について解説した「ひだGAPマニュアル」を用い、管理項目について説明し、チェックリストを用いた自己チェックが行われた。

今後、研修会で記入したチェックリストをもとに組合員ごとに改善提案書を作成して配布し、GAPに対する意識の向上を図っていく。

農業普及課は関係機関と連携し、さらなるGAP推進に向けて支援していく。



【研修会の様子】

新たなブランドづくり

■ モモ モモの先進地視察in福島県

6月19～20日にかけて、本県が育成したモモの新品種“飛騨おとめ”のブランド化に向けた手法を学ぶため、県育成品種のブランド化を先進的に行っている福島県への視察を行った。当日は、育成品種を導入している生産者ほ場や現地の種苗メーカー、福島県果樹研究所などを視察し、普及に当たっての課題点についてお話を伺うことができた。

新品種のブランド化においては、産地・生産者と関係機関が連携し、一体的な取組みを行うことが重要となる。

農業普及課では、視察で得た情報を踏まえて、今後も“飛騨おとめ”のブランド化に向け、生産者及び関係機関とより一層連携し、更なる振興を図っていく。



【現地の職員から説明を受ける様子】

多様な担い手づくり

■ 水稻 地域水田農業の将来について意見交換

高山市上野地区では地区水田農業の将来を見据え、農事改良組合、農業委員が中心となり、JA、市の協力のもと、6月20日に上野平公民館で地区座談会が開催された。

農業普及課からは地区の特徴、集落営農の考え方等について説明し、上野地区の水田農業の在り方について助言を行った。この結果、活発な意見交換が行われ、地区で取り組むべき第一歩が決定された。

農業普及課では上野地区での集落営農システムの構築に向け、関係機関と濃密な連携により支援していく。

■新規就農者 **新規就農者激励会を開催**

6月22日（金）に、高山市において指導農業士会、青年農業士会、飛騨農林事務所主催で「新規就農者激励会」を開催した。高山市・飛騨市・農業大学校・飛騨高山高校、農協等関係機関からも多数の出席があり総勢 61 名と盛大な激励会となった。

当日は 32 名の新規就農者で激励会対象者のうち 19 名が出席し、「気候を活かして質の良い農産物を作りたい。」「女性の立場で農業にかかわっていきたい。」「年間雇用できるように冬期間も作物が栽培できる大型ハウスを建てたい。」など、建設的な意見がたくさん出された。

農業普及課では、開催までの企画・調整及び当日の運営支援を行い、今後も営農定着できるよう支援していく。



【夢を語る新規就農者】

売れるブランドづくり

■朝市・農産物直売所 **飛騨地域朝市連合総会・情報交換会開催**

6月13日に飛騨総合庁舎にて、8名の朝市・直売所の代表者、4名の関係機関等が参加して、朝市連合の総会および情報交換会が開催された。

総会では農業普及課から農薬の使用方法について実用的な研修を行った。情報交換会では、どの直売所も直面する出荷者の「高齢化」が話題に上がった。高齢化が進むことは、直売所の大きな魅力である「多種類・多品種」を作れる農家がいなくなることを意味しており、深刻な問題であることが認識され、対策の必要性が確認された。



【活発な交流が行われました】

■果樹 **飛騨桃産地交流会を開催**

6月14日、JAひだ果実出荷組合協議会は、飛騨桃の出荷を控え、飛騨桃産地交流会を開催した。

交流会では、市場4社の担当者やJA職員、中山間農業研究所研究員、農業普及課職員が飛騨管内5つの組合を巡回した。その際、市場から、今年の生産販売状況や産地への要望について、生産者からは今年の生育状況について意見交換を行った。また、本年度から本格出荷を迎える県オリジナル品種「飛騨おとめ」の生育状況を確認した。

農業普及課では、今後も引き続き関係機関と連携しながら、果樹産地全体の栽培技術向上および産地PRへの取り組みを支援していく。



【産地交流会の様子】

■アスパラガス **夏芽目揃会・栽培研修会を開催**

飛騨市アスパラガス生産研究会は、夏芽の本格的な出荷を前に目揃会と栽培研修会を6月16日に開催した。

目揃会では、春芽の出荷実績と市場関係者からの評価について報告を受け、好調だった春芽の地元需要が継続できるように出荷規格と品質について市場関係者とともに検討した。研修会では農業普及課から今後の栽培管理について指導を行い、温度管理と灌水を中心に高温対策の徹底を図った。

農業普及課では、今後も栽培指導を継続し、飛騨市のアスパラガス栽培を支援していく。



【目揃会で出荷規格と品質を確認】

■トマト **本格出荷開始に向けて（飛騨トマト部会出荷目揃え会）**

飛騨トマト部会では7月からの本格出荷に向けた出荷目揃え会が6月28日に開催された。目揃え会では、当面の出荷予測、今年の市場情勢と販売戦略、出荷規格の確認と徹底などについて検討が行われた。加えて農業普及課からは収量、品質向上をめざし、今後の栽培管理について説明を行った。農業普及課では今後も新規就農者を中心に巡回指導や研修会を実施し、収量、品質向上をめざす。



【目揃えの様子】

■夏秋トマト **高山トマト新品種栽培研修会**

高山トマト部会では約3割が新品種『麗月』の栽培に取り組んでおり、特性の理解を深めるため6月26日と28日にグループに分かれて現地栽培研修会を実施した。

各グループの生産ほ場で草勢の維持管理や灌水の注意点について理解を深め、生育状況について情報交換を行った。

生産者からは、「品種が変わると基本に帰って良いのでは」など意見が聞かれ、今後、栽培技術の確立に向け研修を重ねていく。



【高山トマト部会視察の様子】

■宿儺かぼちゃ **現地研修会を開催**

宿儺かぼちゃ研究会は、飛騨及びび下呂地域の宿儺かぼちゃ栽培者で組織され、平成30年4月現在の会員数は195名である。

研究会主催による地域別栽培研修会が6月6日から8日にかけて、高山市久々野町、高山市丹生川町、飛騨市古川町の3会場で地域別栽培研修会が開催された。

農業普及課からは、摘芯・整枝等の栽培管理や病虫害対策、特に問題となっている疫病菌による腐り果の防止について指導を行った。また、現地圃場で実物を用いながら摘芯や4本仕立ての方法について理解を図った。

農業普及課では、収穫までの栽培管理指導を行っていく。



【現地圃場研修の様子】

■ほうれんそう 統一目揃え会における高温対策の呼びかけ

6月25日に飛騨管内各地域にて、飛騨ほうれんそうの統一目揃え会が開催された。農業普及課からは、今年の夏は猛暑になるという予測を踏まえて、予め作成した資料に基づき高温対策（遮光資材活用、土壌水分維持）の呼びかけを行った。

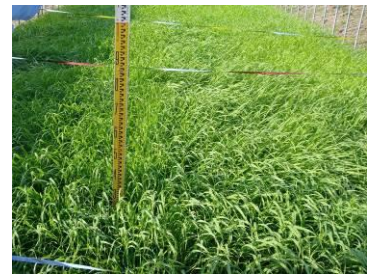
今年ここまでは天候に恵まれ（好天続き＋夜温低下）、順調な出荷が続いたが、飛騨ほうれんそうの本番は夏に入るこれからである。飛騨ほうれんそうの安定出荷と農家の所得向上に向け、農業普及課として栽培支援を継続していく。



【目揃え会の様子】

■ほうれんそう 緑肥作物作付け実証の取り組み

農業普及課ではJAひだと連携して、ほうれんそうハウスの土壌物理性改善を目的とした緑肥作物の作付け実証に取り組んでいる。昨年、土壌物理性調査を行ったところ、生育の悪い圃場においては耕盤の存在が確認されるなど、改善の必要性が把握できた。そこで、耕盤破碎と土壌の膨軟化を目的として、緑肥作物（エンバク、セスバニア等）の作付け実証を行うこととした。5～6月に播種して現在生育中（写真）だが、今後は土壌硬度の測定や、土壌断面観察による耕盤まで緑肥の根が伸びているかどうかの確認などを行い、緑肥効果を明らかにしていく予定である。



【緑肥作物実証ほの様子】

住みよい農村づくり

■地域支援 献穀粟は種祭

6月11日に白川村にて献穀粟の播種祭を開催した。

祭事には、献穀者や関係機関が出席し、献穀の豊穰を祈願した。祭事後には、出席者が粟を定植した。

農業普及課では、関係機関と連携しながら、献穀粟の栽培を支援していく。



【播種祭の様子】